幼児期の子どもをもつ母親の夫婦ペアレンティング調整

―父親の語りから―

加　藤　道　代*
神　谷　哲　司**

幼児をもつ母親による父親へのペアレンティング調整行動について，父親に焦点をあてて検討した。第一子が2，3歳の子どもをもつ6名の父親を対象に半構造化面接を行い，拒否・否定・非難を中心とした“批判”と，支持・尊重・激励を中心とした“促進”について語りを収集した。その結果，父親に認知される母親の促進的調整は，「子どもの様子を報告する母親」「父子接触の機会をアレンジする母親＝自分の時間を作る母親」「父親に子どもへの対処を教える・依頼する母親」「父親に子どものことで相談する母親」「父親に感謝する母親」，批判的調整は，「父親の対応に対する指示・制止・修正者としての母親」「子育てに関する考え方の違いを間接的に示唆する母親」「負担感情をぶつける母親」に分類された。「夫－妻」二者システムと「父－母－子」三者システムが混じり合いながら，新たな家族システム形成が模索される幼児期の特徴から考察された。

キーワード：幼児期　コペアレンティング，父親，促進，批判

問題と目的

生涯発達心理学において，“子どもを育てる”ことは，“（自らが）育つ”と同様，極めて重要なテーマである。鯨岡（2002）は，子育ては，「育てられる者」から「育てる者」に一大転換する人生の節目であると指摘した。そして，子どもが誕生し，父親，母親という親としての役割が加わることは，単に養育行為への従事だけではなく，社会的役割や責任の自覚など，それまでの「育てられる者」としての生き方や態度とは根本的に異なった心理・社会的構えを身につけることであると述べている（鯨岡，2002）。特にこの時期の女性は，身体・生物的，心理的，社会的にも大きな変化となり，しばらくの間，母親は子どものケアに自己を投入することになる。このことは，親発達研究が母親を中心に議論されることが多かった理由のひとつであろう。

この時期の変化を家族という単位から見ると，結婚によって出生家族から分離されて形成された夫婦システムが，新たな家族メンバー（子ども）を迎えることに伴い，調整を迫られる時期である（亀口，2014）。こうした危機においては「特定段階にしがみつくことなく，また急激な変化に圧倒されることなく，成長できるような方向で，安定と変化を統合すること」が求められる（岡堂，1991）。

*教育学研究科　教授
**教育学研究科　准教授

加藤・神谷（2016）によれば，子育て生活は，確かに思う通りにならない数々の不自由，制約や制限がある一方で，その制約感は，親になったことによる柔軟さや寛大さなどの人格変化，さらには広く子育てを通じた他者との関係性変化にポジティブな影響を与える。また，若い夫婦が親になっていく過程は，個人としての養育力やスキルの増加だけではなく，二人でどのように力を合わせて子育ての危機を乗り越えていくか，そして，祖父母，子育てを通じた友人，地域や公共の子育て支援サービスのような家族外の力をどのように借りていくかなど，親としての多様な発達の側面を併せ持つ。親役割の取得や生活構造の変化，夫婦システムの調整は，子どもをめぐる父親と母親の協力を通じて形成されると言えるだろう。

Cowan, Powell & Cowan（1998）は，親子関係の変化の多様性と子どもの発達への影響を理解するには，父母が夫婦として親密かどうかだけではなく，2人でうまく子どもにかかわれるかどうかが親子関係に影響を与えると指摘する。このような子育てにおける父母の協働関係を，夫婦関係とは異なる枠組みからとらえようとする試みとして，コペアレンティング（coparenting）という概念がある。コペアレンティングは，ペアレンティング（親子関係）や夫婦関係とは区別される家庭内サブシステムのひとつであり，「親が親としての役割をどのように一緒に行うか，どのくらい親がもう一方の親の努力をサポートするか否か（Feinberg, 2003）」を示す。広義には，「その子どもの世話と養育に責任を負う複数の養育者によって共有される行為（McHale & Lindahl, 2011）」と定義され，多様な家族形態に適用可能な概念である。これまで著者らは，日本における子育てと家族機能を理解するため，夫婦によるコペアレンティング（以下，夫婦ペアレンティング）の様態を示してきた。

夫婦ペアレンティングの先行研究では，乳幼児期，児童期，思春期，青年期のいずれの子育て期においても，母親は父親に対して，支持・尊重・激励を中心とした“促進”，および，拒否・否定・非難を中心とした“批判”を行っていた。母からの“促進”の高さは，父親の子ども関与，育児協働感および夫婦関係満足の高さと関連し，“批判”の高さは，父親の関与，育児協働感や夫婦満足感の低さと関連していた。また，幼児期，児童期に比べて，思春期，青年期は母親の“促進”が減少していることも示されている（加藤・黒澤・神谷，2014）。

加藤・神谷（2019）では，思春期の子どもの存在が，どのように夫婦ペアレンティングに関わっているのかに注目し，父親がとらえる母親からの促進と批判エピソードを面接調査により抽出した。その結果，母親の促進的な夫婦ペアレンティング調整行動は，「子どもの言葉や気持ちを代弁する母親」「父子接触の機会をアレンジする母親」「父親に子どものことで相談・依頼する母親」「父親を立てる母親」の4つの調整行動に分類され，いずれも父子関係の仲介役として作用していた。そして思春期の子どもと父親の距離を縮め，父親尊重のメッセージとなって父親に自信を与え，父母間で子育ての喜びを共有しあうように機能していた。その一方，母親の批判的な夫婦ペアレンティング調整行動は，「父子衝突への割り込みとしての母親」「父親の対応に対する制止・修正者としての母親」「子育てに関する考え方の違いを間接的に示唆する母親」に分類され，母親の行う批判は，父親にとって明確で直接的なものだけでなく，非言語的暗示的な言動もみられることが確認された。

ところで，夫婦ペアレンティングが夫婦関係とは区別されるという指摘（Minuchin, 1974; Cowan & McHale,1996）の重要な点は，子どもの存在である。夫婦ペアレンティングは，子どもの発達段階によって共通の部分や異なる部分が想定される。思春期親子間のコミュニケーションでは，子ども自身の嗜好や意思の主張は見逃せず，子どもの気持ちに対する親の気遣いや共感とともに対立も生じる。これに対して，2，3歳の幼児は，身体行動，言語表現や認知機能，情動制御も未だ組織化されず，親の方も，知識や養育スキルが未だ十分ではない。

これらを踏まえて本研究では，幼児期育児において，母親が父親に働きかける夫婦ペアレンティングの詳細を検討する。本稿では，2，3歳児の第一子をもつ父親を対象として，母親から父親にむけた拒否・否定・非難を中心とした“批判”と，支持・尊重・激励を中心とした“促進”について，父親がとらえるエピソードを抽出しまとめる。その際，日常生活の文脈において，子どもの存在がどのように夫婦ペアレンティングに関わっているのかについて注目しながら日常のエピソードを抽出し，幼児期の子どもをもつ家族のダイナミクスを明らかにしたい。

方　法

1. 調査方法と分析対象者

第一子が2，3歳の子どもをもつ父親6名（男児の父親3名，女児の父親3名）を対象に半構造化面接調査を行った。対象者は，第一子年齢と性別を条件として，㈱クロスマーケティングのリサーチ専門データベースの登録モニターから選定された。面接者（第一筆者と第二筆者）は，いずれの対象者とも面識はなく，調査時回答以外の個人情報をもたない。全員正職員の会社員で，妻の就業状況は，フルタイム正職員が2名，派遣契約社員2名，パートタイム1名，専業主婦1名であった。調査は2015年10月に実施され，協力者には調査会社を通じてモニターポイントが付与された。

2. 調査内容と手続き

父親の子育て関与に対する母親からの働きかけを検討するために作成された夫婦ペアレンティング調整尺度（6件法：加藤・黒澤・神谷（2014））は，母親版，父親版ともに，支持，尊重，激励を中心とした“促進”（9項目）と，拒否，非難を中心とした“批判”（7項目）からなる。本調査では，このうち父親版を，調査協力者の父親に回答してもらった後，“促進”と“批判”のそれぞれから，日常の子育て場面で思い当たる数項目を選んでそのエピソードを語ってもらった。その際，母親の調整行動が生じる経緯，父親の反応，その際の子どもの様子，父母の感情，意図等を明らかにするため，面接者（著者）より適宜発問を加えた。面接内容は，ICレコーダに録音し文字化してまとめ，エピソードのまとまりごとに抽出し，その内容を分類した。

促進項目は「あなたの妻は，あなたが子どもにかかわるのを励ましたり，促したりするために，次のようなことをどのくらい行っていますか？」，批判項目は「あなたの子どもへのかかわりが，妻にとって納得できないようなとき，妻はあなたに対して次のようなことをどのくらい行っていますか？」という教示で回答を求めた。項目は以下のとおりである。

促進項目

E1　あなたに相手をしてもらっていることで，子どもがとても喜んでいるとあなたに伝える。

E2　子どもの相手をしてくれてありがとうとあなたに伝える。

E3　あなたがよい親だということを，あなたが聞いているときに他の人に伝える。

E4　あなたが一人で子どもとかかわる時間を持てるようにする。

E5　あなたをほめる（例「あなたは私より子どもの相手がうまい」）

E6　手を貸してくれるようにあなたにお願いする。

E7　子どものことについて，あなたの考えを尋ねる。

E8　あなたと子どもが一緒に過ごせるように手配や準備をする。

E9「あなたはよいお父さんだ」とあなたに伝える。

批判項目

C1　子どもに対するあなたのかかわりで気に入らない行動を他の人に話す。

C2　あなたがやっていることを取り上げて，妻が自分のやり方でやる。

C3　あなたに対して怒っていることやいらいらしていることを，あなたに対する態度や表情に表す。

C4「あなたのしたことは間違っていると思う」とあなたに言う。

C5「お父さんおかしいよね」と子どもに向かって言うことで，間接的にあなたに伝える。

C6　あなたを非難する（例「子どもの気持ちがわからないの？」）

C7　ムッとして，あきれた顔をあなたにむける。

3. 倫理的配慮

東北大学大学院教育学研究科研究倫理審査委員会の承認を受けて実施した（承認番号15-1-016）。

結　果

1. 夫婦ペアレンティング調整尺度の得点と語りに選ばれた項目（表1，表2）

促進で選ばれた項目は多岐にわたるが，中でも「E6　手を貸してくれるようにあなたにお願いする」および「E7　子どものことについて，あなたの考えを尋ねる」が多くとりあげられた。批判は，選定に偏りがみられ，「C3　あなたに対して怒っていることやいらいらしていることを，あなたに対する態度や表情に表す。」および「C6　あなたを非難する」）が多く選ばれた。各自の平均点は，促進は3.44 − 4.78で分布しており，批判は2.00 − 3.57であった（得点範囲は1 − 6）。

協力者は，項目を選択しそれを継起に語るように教示されるが，語りは複数項目にまたがる内容に展開していくことが多い。そこで，以後の分析は，選定項目に注目するのではなく，語られた内容全体から浮かび上がる，父親に対する母親の調整機能という視点から分類を進める。

表1　母親による夫婦ペアレンティング調整行動（促進 E1 ～ E9）に関する父親の語りの生起

協力者	子性別	E 得点平均	E1	E2	E3	E4	E5	E6	E7	E8	E9	その他
O	男	4.56	○		○			○	○			
P	男	4.78		○	○				○	○		
Q	女	4.56	○	○				○	○		○	○
R	男	3.44		○		○	○	○				○
S	女	3.67				○		○	○			○
T	女	4.00	○			○	○		○			○

E1 ～ E9は尺度項目。語りの契機に選択された項目に○を示している。
批判の得点範囲は1－6点

表2　母親による夫婦ペアレンティング調整行動（批判 C1 ～ C7）に関する父親の語りの生起

協力者	子性別	C 得点平均	C 1	C 2	C 3	C 4	C 5	C 6	C 7	その他
O	男	3.00	○		○			○		○
P	男	3.57						○	○	
Q	女	2.00	○	○				○		
R	男	2.43			○	○		○	○	○
S	女	3.29			○					○
T	女	2.57			○			○		○

C 1 ～ C7は尺度項目。語りの契機に選択された項目に○を示している。
批判の得点範囲は1－6点

2. 2, 3歳幼児をもつ夫婦の子育てに関する背景

最初に，2, 3歳幼児の子育ての背景に関する父親の語りに着目した。最も多く上げられたのは，子どもによる「お母さんじゃないと駄目」という母親選好であった。＃1 ～＃4には，寝るとき，泣いたとき，抱っこのとき，後追いなどの場面で，子どもが母親を求めることについて，父親は「手の出しようがない」と落胆する。父親は，母親が子どもから離れてひとりになりたいことも理解し協力したいと思っているが，子どもの母親選好によって阻まれると述べる。子どもの母親選好の理由として，父親は，仕事の忙しさによる子どもとの接触時間の差をあげた（＃4）。母親が父親にもっと関与してもらいたがっていることも認識されており（＃6 ～＃8），後にまとめる分類エピソードの中にも頻繁に登場する子育ての背景となる。

その他，父親と母親の遊び方の違いは（＃5），母親の出番，父親の出番の違いにつながっている。

＃1　妻も子どもから1日2日離れたいっていう気持ちはあると思うんですけど。まだまだなかなか難しくて。例えば夜も，最終的にはお母さんじゃないと寝ないですね。寝る寸前くらいまで，面倒見ることはできるんですけど，いざ寝るぞ！っていうときはお母さんじゃないと寝つかないっていうのが…。（O）

＃2　基本的には気が付いた方が抱っこするんですけども，子どもがやっぱり母親の方に行きたがるんですよね。

「だっこ，ママー。」とか言って。僕がやってもいいんですけど，あんまりやっぱりきかないんですよね。ここ1年くらい急にママっ子になっちゃって。(P)

＃3　妻が「一人で美容院行きたいわ」なんていう時は，僕が子守りしてるんですけど，子どもはやっぱりお母さんがいいみたいで，「ママは―，お母さんは―」。下の子も10か月なので，ママが見えなくなっちゃうと泣いちゃうし。扉開けてて探して，「いない，いない，いない」。最終的におかあさん。(R)

＃4　育てやすい方ですけど，それでも場所見知りとか人見知りで泣いたときには，妻でないとダメですね。やっぱり私は仕事していて日中いなくて。下手すると子どもが寝てる時間にしか帰らないので，ほんとに顔合わす時間って朝の数分しかない。それに比べると妻は専業主婦なので，ほぼ24時間，子どもと接している。どうしても子どもにとっては妻じゃないと落ち着かない。私が抱っこしても泣き止む問題ではないので，そこには協力したくてもできなかったっていう。そうなるとこっちは手の出しようが何もない。(S)

＃5　僕と遊ぶ時はやっぱ力技系というか。だから子どもも，うちの妻と遊ぶ時の遊び方と僕と遊ぶ時の遊び方がちょっと違うみたいで。まあバランスよく出来てんのかなって感じはしますけどね。(T)

＃6　仕事柄，帰ってくると，もう子どもは寝てる。一緒に妻も寝ちゃってることも多くて。(O)

＃7　平日は，寝てるときに家に帰るので，朝だけ子どもに会う感じ。自分から何かしてもいいんですけど，まだ，子どもがどっかいきたいっていう事はなくて，うーん，もうちょっとねえ，5歳とかになれば，一緒に2人でって思うんですけれど。(R)

＃8　もう少し遊んでほしいとはやっぱり言われますけどもね。どうしても。平日はそれこそ寝てしまったタイミングでしか帰らないので。子どもの世話をする時間が，平日は短いので。土日だけじゃなくてもう少し長く，平日も含めてやってもらったら嬉しい，が，妻の気持ちかなって。(S)

3. 促進：父親の認知する，母親による父親への促進的夫婦ペアレンティング調整について

(1)　子どもの様子を報告する母親（O，P，Q，S，T）

「E1　あなたに相手をしてもらっていることで，子どもがとても喜んでいるとあなたに伝える」および「E5　あなたをほめる」や「E7　子どものことについて，あなたの考えを尋ねる」から語られたエピソードは，父親が仕事中で見られない子どもの様子を，写真，動画，LINE 等で父親に報告し伝える母親の姿である。父親は母親の「感謝」「子どもに会えない自分に知らせてあげたい」「共有したい」「誰かに伝えたい」行動と推察し（＃9），「（父親の対応を）子どもが喜んでいたのがわかって嬉しい」「妻が共有してくれたのが嬉しい」「関わり方がわかって有り難い」など，子どもを知る手がかりや母親との共有と受け止めている（＃9，＃10，＃11，＃13）。一方で，「僕がもっと相手をするように仕向けてる言葉」かもしれないと受け取る父親もいた（＃8，＃13）。

#9　帰って来ると，子どもの今日の様子とか教えてくれるんですよね。「土日にお父さんとやっていた遊びを，一人で再現してたよ」とか。「一緒に乗った乗り物を見た時に「あ，パパ！パパ！」って言ってすごい喜んでた」とか。あとは仕事中でもLINEで撮ってくれて，「今こんな状況だよ」って教えてくれたりする，すごい頻繁に。感謝はしてくれてるんだろな。僕，土日くらいしか会えないけど，僕が子どもをかわいがっていること知ってるので，少しでも子どもの様子とか，成長ぶりを伝えてあげよっていうような気持ちはあるんじゃないかな。共有したいってのもあると思うんですね。いま妻は働いてるわけでもないですし，友達はいますけど，身内も近くにいないので，一日の様子を誰かに伝えたいっていうのもあるんじゃないかな。（教えてもらうと）それぐらい子どもが喜んでくれてたんだな，ってのが嬉しいですよね。妻がそうやって共有してくれることも嬉しいですね。してくれなければ絶対わからないことなので。もう少し詳しく聞いたりとか，それをきっかけに会話してる感じですね。やっぱり会話の中心って子どものことになるので。そんなに喜ぶんだったら今度どこどこ行こうか，ってことも考えられるので嬉しいし，ありがたいですね。妻も微笑ましそうに見てるし，そこから嬉しそうに話がつながっていく。うん，共有すること自体楽しんでる感じもありますね。（O）

#10　僕は子どもとのコミュニケーションが足りないだろうと思わされることがすごくあって。物理的にいなくて，一日1時間とか30分しか会ってないんで。妻からの情報で，物事を知るっていうことはすごく多くて。（P）

#11　子どもと遊んでいて，たかいたかいとか，肩車をするときって，どうしても子どもの顔が見えなかったりするじゃないですか。そういうときに「あ，笑ってる」とか言って，子どもの様子を伝えてくれたりしますね。あぁこの遊び方もありなんだなーって感じる。（Q）

#12　家に帰って来ると，ちょっとこれ見てって，動画とか写真を見て。子どもが踊ってたとか聞いたり。あとはちょっと体調が悪かったときとか，今日ミルクの飲みが悪かったとか，そういう話は聞いていた。（S）

#13　妻だと力技系の遊びが出来ないので，僕が高い高いしてると，「すごく笑って喜んでるよ，お父さんと遊んでるときが一番笑ってるよ」って言われる事がありますね。僕がもっと相手をするように仕向けてる言葉で，ちょっと乗せられてんのかなって気もしながら。あとは一緒に遊んでるところの動画や写真。あ，こんな風に笑ってるんだとか子どもの反応が分かる。…まあ疲れるんですけど，ただ，もうちょっと育ってくると，お父さん嫌いとか遊んでくれないって言われるって聞くんで，まあ今しかないのかなって疲れた後にぽろっと考える。（T）

⑵　父子接触の機会をアレンジする母親＝母親は自分の時間を得る　（P，R，S，T）

主に「E4　あなたが一人で子どもとかかわる時間を持てるようにする」「E8　あなたと子どもが一緒に過ごせるように手配や準備をする」から語られたエピソードは，積極的に父親を子どもに関わらせるための機会をアレンジし，それがうまく運ぶように準備する母親の姿であり，同時に母親が自分の時間を得るための工夫でもある（＃14，＃16，＃18）。母親は，父子の接触の機会のアレンジの中で「こうするとうまくいく」と父親に提案している（＃15）が，他の複数の父親も，「やっぱり母親の方が子どものことをよく知っている」と述べていた（＃15，＃18）。

なお，母親から用意された父子の時間に対する父親の受け取り方は，「提案」「妻が自分のことを

考えてくれている」という以外にも，「子どもを誘導」「策士」という声（＃16）や，上手く「仕向けられる」（＃17）という声もある。しかし，父子だけですごす不安は大きいものの（＃18），結果として上手く関われたことで自信を持てたり（＃15，＃18），「子どもに頼られるのが嬉しい」（＃16）と母親に感謝する声が聞かれた。

#14　預けていく時は，下の子の離乳食置いて。（R）

＃15　「こういう遊びをすると子どもが喜ぶよ，だから，やったらいいんじゃない」っていう提案みたいなのをもらって。それを子どもにやると，やっぱ子どもが喜ぶ。で，子どもが癖になるので，何度も今度は僕にねだってくるようになる。特に妻が料理とかしてる時に，子どもが暇そうにしてるので，ちょっと遊ぶかって。すると，子どもが分かるのか寄ってきて。あと，キックバイクを買ったけど足が届かず，「まだ早いね」って，子ども部屋に置きっぱなしにしてたんですけれども。妻が乗せたのか，「足届くようになったよ，乗っけて押して遊ぶと喜ぶよ」。土日，子どもを乗っけて，押してあげて，で，喜べばまたやるかとか。やっぱり妻の方が子どものことをよく知っているので。（S）

＃16　僕がいない間も「パパ，お仕事？」「パパ，いないねぇ」とか言ってるらしいんですよね。妻が，その辺はすごく考えてやってくれてて。会えない分，意識を持たせられるように敢えてしてるらしいんですよね。僕もやっぱり子どもに頼られると嬉しいし。すごいありがたいなーと思いますね。

たとえば土日の朝，お散歩に「行ってこい」って言われて。その子どもと遊ぶ時間，彼女がそれは休息にもなるので。そういう風な時間を持たせるようにしてくれてるんですよね。あと，掃除をする，洗濯たたむのも，子どもと一緒に家事をやる時間は，妻が作ってくれてるんで。僕に直接お願いするよりは，子どもを誘導してるんでしょうね。僕も疲れ切ってるんで休みたいから，直接僕に言うと，角が立つ。そういう意味では彼女の方が策士なんですよね。子ども使った方が，当然僕が動くに決まっているから。だけど，頼られて嬉しいし。何かやってあげようと思うわけですよ。妻は，子どもに「よかったねー」って言って，ニコニコ見守ってる感じ。（P）

＃17　妻が子どもに「ほら，お父さんと遊びな」「お父さんに高い高いして貰いな」とか，上手くこう，もっていく。なんかこう，言葉で仕向けられるっていう感じですかね。（T）

＃18　「（母親の趣味の場）子どもを連れて行くと思い切りできない」ってあまりにも言われるもんで，「じゃあ置いてけよ」って。まあ近場の近所で一緒に散歩したりとか自転車乗って散歩したりとかで時間つぶしてですね。食事も食べさせましたけど，昼寝は自転車でちょっと寝たりして，なんとか大丈夫だったかなと。僕も意外といけるもんだなって。ただ，土日しか一緒にいる時間がないので，子どもが思ってる事を汲み取れないんだろうな，やっぱり妻の方が子どもの事を知ってるので，子どもにとっても安心できるのかなっていう気はしましたけどね。僕がおっぱいあげられる訳じゃないんで，一番はそれ。よくわかんなく泣かれちゃったときはどうしようかなっていう，ちょっと不安な気持ちでずっと時間を過ごすという感じですね。（T）

⑶　父親に子どもへの対処を教える・依頼する母親　（O，R，S、）

「E6　手を貸してくれるようにあなたにお願いする」から話されたエピソードは，母親が父親に子どもへの対応を教えつつ依頼する行動である。里帰りの間に（＃20），首が据わるまでのケアを怖がっている間に（＃19），母親は「先にお母さんっぽくなって」しまっている（＃20）。父親は母親に「手伝って」と頼まれ，教えてもらいながらやり方を学ぶ（＃19，＃20）。子育てが忙しくなってくると，ご飯，おむつ交換，お風呂，着替えなど（＃22）以外にも，母親が手を離せない時に「かまってあげてほしい」とお願いされている（＃21）。

＃19　首が座るまでってどうしても怖い。私があまり手を出したくないっていう思いもあって，首が座るまで妻がやってくれて。首座る位からは，妻がやって「こうやって子どもの頭を持つんだよ，残った方で体ふくんだよ」とか説明してくれるので，横で見ながら。「じゃ，明日からやって」みたいに。おっかなびっくり自分でやって。「こうした方がいいよね」って横で見てもらいながら。（S）

＃20　生まれてから半年くらい実家に戻っていて，僕が行けたのは2回だけ。だから先にもうお母さんっぽくなってた。自分は全く動けなかった。言われたことはできるんですけど，どうしていいかわからないんですね。おむつとか言われても。そういった中で少しずついろんなことにあれやってこれやって，手伝ってってのが増えていって，お願いっていう形で順番にならして動きやすいようにしてくれてましたね。やってみせるんじゃなくてやらせてみせて教えるっていう。当時はまぁ，イラっとかしましたね，やっぱり。そんなこといきなり言われてもわかんねーよって。でも2，3年経って思うと，それはすごいありがたかったですね。（O）

＃21　料理を作ってるときに，僕に「別の事をしてないでちょっと手を貸してほしい」とか，「かまってあげてほしい」と。上の子の着替えとかそういうのはやってくれと言われて。やるようにしてますね。（R）

＃22　子どもってよくものをこぼすので，テーブルにランチマット敷いたり，手でつかんで手を汚すのでウェットティッシュの準備とか。そういう準備だけしといてとはよく言われます。土日は私も家にいるので，お風呂入れてとかよくお願いされる。お願いされることは，決まってますね。ご飯をあげることと，おむつ交換と，お風呂と。出かけるときには着替えさせたりとか。（S）

⑷　相談する母親　（O，P，Q，S、T）

「E7　子どものことについて夫に考えを尋ねる」から話されたエピソードは，母親からの相談に対して，父親の考えを確認されるので意見を言う場合（＃23，＃24，＃25，＃26，＃27）と，父親としての助言は控えるという場合（＃28）があった。前者では，父親自身が意見を言うことを喜んでいる。後者は，「聴くことが，今，自分に求められている役割」だと認識している。相談の内容は，育児の問題（病気，予防接種，食べさせ方など），習い事，幼稚園の選び方）であり，子どもの性質や行動を話し合い，子育て方針を確認しあう機会となっていることがわかる。

#23　考え方を尋ねられるっていうのはよくあるんですよ。特に，「病気なんじゃないか」とか，「病院行った方がいいと思う？」とか。相談してもらうと自分の意見言えるのがね，やっぱり楽しいし，意見を共有してもらうと，子どもの傾向も見えてくるのが面白くて。あとは，大げさに言うと教育の方針，こういう風な教え方したらいいんじゃないとか。よく話したりとかはしてて。(P)

#24　習い事は何させたいかっていうの聞かれたことありますね。私が答えたのは，水泳と英語とそろばん。お母さんは英語とそろばんでしたね。水泳はもうちょっと大きくなって，おむつが取れたらかな？って。(Q)

#25　妻も私も背が低い方なので，「あんま好き嫌いしてるとこの子も背が小さくなる！」って，嫁は悩んでたんですけど，私は流れに任せていいんじゃないって。悩んだってしょうがないって。まあ少し楽になったみたいですけどね。…英語教室みたいなのに今通わせてるんですけれど，妻がやらせたいって言ったから，「いいよ，やっておいで」っていうふうに。そろばんもそのうちやらせてみたいね，って話したりとか。そういう風に持ち掛けられて，基本は断ることはないですね。(Q)

＃26　常に子どものことは，食べ物の話だったりとか，病気とか予防接種とかの話もよく。もう一つ気になるのは添加物。ああいうものをちっちゃいうちからあげているとどうなのかなっていうのは気になるところなので，これあげていい？って聞かれますね。…幼稚園に2年通わすか3年通わすかみたいなところは，どうしようねって二人で相談しながら考えてました。費用面で2年保育の方が1年短いのでいいよねっていう話はしてたんですけど，うちの子，人見知りとか場所見知りとかする方なので，それだったら3年保育で，他の子ども達とか先生と触れ合ったほうがいいんじゃないって話し合って。そうだね，3年保育かなって。(S)

＃27　「どこの幼稚園が良いかしらね」，妻に尋ねられましたね。妻はプレ幼稚園で見学に行ったりしてるんですけど，僕は行ける訳じゃないので，結局妻の話で，ここの幼稚園はこういう方針で…っていう話を聞いて。子育てってあんまり考えすぎてもいけないのかもしんないですけど，今後子どもがどういう方向に行くかっていうのを，多分その選択がやっぱり難しいので聞いてきたんだろうな。自分一人で子どもの将来を考える訳じゃないので，やっぱり一緒に，どういう方向性に進まさせてあげたらいいか，考えてねっていうとこだったのかな。まあ悪い気はしないというか，まあ一緒に考えていくのは当然の事なので，自分一人で勝手にここの幼稚園に決めたからって言われるよりは良かったかなっていう気はしますね。(T)

#28　1，2歳のころはなかったんですけど，最近ちょっと増えてきましたね。習い事で子どもがこうなっちゃったんだけど，どう思う？とか，叱った方がよかったのかな，叱りすぎちゃったかな，とか。同年代の子に比べて言葉がちょっと遅い，これって大丈夫なのかな，専門家に行った方いいのかなとか。家の中だけにいた頃っていうのは，妻と子どもの関係で完結してて，まぁ病気とか体調が悪いとかの話なので，自分の両親とかには電話してても，あまり私に相談されるってことはなかった。2歳半くらいから外に行く機会が増えて，よその子とかお母さんとかと触れ合う機会とかも増えて，いろんなことが起こり始めた。

　相談されたら，まず聞く。どういったことがあったのか，どう思ってるのかをきいて，あんまり具体的なアドバイスとか，逆に叱ったりとかってのはしないようにはしてますね。たぶん，まず聞いてほしい，誰かに言いたいって言うのがあると思うんです。それに対してできることは聞いて，ガス抜きをしてあげて，思うことがあれば言っ

てあげることなのかな？大丈夫だよ，心配しないでって。多分アドバイスは欲しくないんだろなって。だから，そういうときはテレビとかもつけないで聞くようにはしてます。多分喋りながら自分の考えをまとめたいんでしょうね。帰って子どもと妻が寝てても，部屋がすごいことになってたりすると，あぁだいぶ来てるなっていうのを感じますね。そうなると，仕事をちょっと調節して，翌日早目に帰ったりとかっていうのはしてますね。たぶん今求められている役割はそこなんだろうなってのは感じますね。話ができるとすっきりした顔してますし，考えがまとまってるのは伝わってきますね。（O）

⑸　父親に感謝する母親　（直接の感謝：P，Q，R　・　間接の感謝：O，P，Q，R））

「E2　子どもの相手をしてくれてありがとうとあなたに伝える」から話されるエピソードは，母親が父親に直接感謝する姿である。これは，緊張しながら子どもの世話をする父親に喜び（＃31）と安堵（＃29）を与え，子どもへの関与動機を高めている（＃31）。一方，母親による父親への感謝は，間接的なかたちでも父親に伝わっている。それらは，「E1　あなたに相手をしてもらっていることで，子どもがとても喜んでいるとあなたに伝える」「E3　あなたがよい親だということを，あなたが聞いているときに他の人に伝える」「E5　あなたをほめる」「E6　手を貸してくれるようにあなたにお願いする」「E9　「あなたはよいお父さんだ」とあなたに伝える」など，様々な促進項目を契機に語られた。例えば，母親は身近な友人，祖父母，子どもに対して，父親が頑張っていることを話すため，その言葉が聞こえた父親は，話している母親の嬉しさも感じて嬉しい気持ちになる（＃32）。他者を通じた感謝について，母親が面と向かって感謝しにくいのかもしれないととらえたり，父親自身も「当たり前のこと」と消極的表現を示す場合もあった（＃33，＃34）。

＃29　僕と子どもだけだった時で，子どもが寝たりとか御機嫌よくいたりした時には，「相手してくれてありがとう」って言われるときはあります。長くて2，3時間。髪切りに行ったりとか。言われると，なんとか終わったなっていう。（R）

＃30　ほぼお互い毎日言いますもんね，「今日も1日ありがとね，相手しておいてくれて」って。互いに。私が遅くて，嫁と子どもが寝てる時間帯に帰るときなんかは，寝る前のメールでお休みって来たとき，「今日も1日こどもありがとねー」って返しますし。（Q）

＃31　子どもの相手をしてくれてありがとうって言われますね。やっぱり妻も疲れ切ってるんで，一緒に遊んであげて。今日も子どもを昼寝させてきたんですけど，寝かしつけ終わってリビングに戻ったら，「ありがとう」と言われましたね。妻は，僕が子どもに対して片手間じゃなくてちゃんと真剣に接している，っていう行動が多分一番嬉しんだと思いますよね。忙しかったりすると，片手間で相手することって多い。ながらになっているときは，彼女はすごく怒るので。真剣にやっているときは，すごく嬉しく思っているんだろうと思って，単純だからもっとやってあげようとか思いますね。コミュニケーションの潤滑剤じゃないですけれど。それで気持ちよく話すことができるようになればやっぱり嬉しいですよね。（P）

＃32　直接は褒めてくれないんですけど，人にいい親だって言ってくれることはよくありますね。友だちとかに，「頑張ってるよー，いいお父さんしてるよー」っていうようなことを言ってくれるんですね。もう結婚してからも長いので，直接感謝の言葉とかってのは，ちょっと伝えづらくなってるかなって。それを違う形で伝えようとしてくれてるんじゃないかな。僕がどういう場面で喜ぶかなってのは，向うもわかってると思うので，やっぱモチベーションあがりますね。知らない振りしながら，中では喜んでるって感じですね。（O）

＃33　僕，料理も洗濯も両方好きで，土日はどっちかやるので，「家事はやるから，圧倒的に楽だ」って友達に言ってるみたいですね。僕は，当たり前のことやっているだけだから，あんまりなんてことなくて。（P）

＃34　子どもの保育園のお友達のお母さんが遊びに来てた時も，料理の準備から片づけまで全部私がやって。ママ友のほうが「こんなにいつもやってくれるの？」って言ったら，「だいたい家事ほとんどやってくれるよ」って，聞こえるところで言ってる…。妻からよりも他のママ友さんとかから，「旦那さんいいねー」って。まあ鼻が高いんじゃないかなーってちょっと思いながら。ちょっと嬉しそうに言ってくるんで。それは当たり前だよね，一緒に生活してるんだから，って答えることがほとんどですね。（Q）

＃35　嫁が子どもに対して，（お父さんは）外で頑張ってるんだよみたいなことは言ってる。ご飯食べてるときとかですかね。食べ物を雑に扱ったりした時に，食べられることへの感謝みたいに。（R）

4. 父親の認知する，母親による父親への“批判”的夫婦ペアレンティング調整

父親が母親からの批判ととらえる言動は，「C3　あなたに対して怒っていることやいらいらしていることを，あなたに対する態度や表情に表す」「C6　あなたを非難する」が多くの父親に選ばれた。前者は間接的メッセージ，後者は直接的メッセージとして父親に伝わっている。内容としては，ご飯の食べさせ方，お風呂の入れ方，しかり方など，関わりの方法やスキルとともに，もう少し手伝って欲しいという母親の不満や要望も含まれる。また，父親への批判的言動は，直接父親に向けられるだけでなく，祖母や身近な友人への話や，メールやSNSで伝えられていることも語られた。

⑴　父親の対応に対する指示・制止・修正者としての母親　（O，P，Q，R，S，T）

「C1　子どもに対するあなたのかかわりで気に入らない行動を他の人に話す」「C3　あなたに対して怒っていることやいらいらしていることを，あなたに対する態度や表情に表す」「C4　あなたのしたことは間違っていると思う」とあなたに言う」「C6　あなたを非難する」「C7　ムッとして，あきれた顔をあなたにむける」から語られたのは，父親による子ども関与の量と質に向けた母親からの抗議である。子どもへの関与に関して，母親には先に自分なりの方針や方法の基準があり，父親の関与が自発的であれ母親の指示によるものであれ，母親の思惑どおりではない時に示される（＃39，＃40，＃41，＃42，＃43，＃44，＃45）。父親にも自分の方針があるために，両者で衝突する場合もある（＃36，＃37，＃38）。母親の言動後，（1－1）父母で口論になる場合，（1－2）父親がその場の衝突は回避するものの，父親に割り切れなさが残る場合，（1－3）父親が自分の対応に非

を感じて母親に従う場合がみられた。それぞれに分類し，以下に示す。

（1－1）父母で議論や口論になる場合

＃36　ちょっと前までは，一人で食べるのが下手くそだったんで，食べさせてあげてたんですよ。ただやっぱり大人の方は冷めちゃう。だから，僕が提案したのは，先に子どもに食べさせて，子ども一人で遊ばせて，大人は一緒に食べればいいだろうと。でも，一緒に3人で食べることに意味があるっていうんですよ，妻は。そういうの嫌だと結構モメましたね。でも，子どもが頑張ったんです。放っておいてもほとんど一人で食べるようになったので。話し合ってももう，考え方が相容れな過ぎるんで。目指している山は，登っている山は一緒なんだけど，ルートが違い過ぎるんで。もうお互い不干渉，そこは。そうするしかなくて。（P）

＃37　妻は怒らないで育てたい。私は親からゲンコツを貰って育っている。子どもが何か不機嫌になって，食べ物を机の下に投げ捨てた。そのときに，私は怒ったんですけど，妻は「そういう怒り方じゃなくて，優しく諭せばわかるよ」っていう言い方をして。私は，まだ言葉が通じない状況だから，親が怒っているってことを雰囲気でもいいから伝えなければならない，それで子どもにわかってもらいたいので怒るんですけれど，妻の方はそういうのはしたくない，納得できないっていうことで口論したことはありますね。（Q）

＃38　子どもが食べたそうなしぐさをしても，私の教育方針であげなかったりするんですね。妻がこれあげていい？て聞いてくるんですけど，ちょっとこれやめとこう，と言うと，妻としてはこれくらいいいじゃないっていう。ちょっと怒ったり，意見の食い違いがあったりとか。（S）

（1－2）父親がその場の衝突は回避するものの，父親に割り切れ無さが残る場合

＃39　安いお菓子とか，オモチャとか，あとはペットボトルのお茶とかですね。ジュースならともかくお茶なら，まぁ，仕方ないかなって，子どもが欲しそうするとついつい買ってしまうことがあって。でも「何で買ったの？」ってことになることもあります。「あんまり頻繁に買うと，コンビニとか，自販機とか，行ったら買うもんだって思われたら大変だから」って。いらいらしてる時とか，疲れてる時とかには言われがちな感じしますね。疲れてる時に，意識して遊びに連れて行ったりするんですけど，帰ってきてそう言われて，「あれ？おかしいな？」って。頑張ったつもりだったんですけどね。（O）

＃40　土日は家にいるようにしてるんですが，僕も疲れていて，家事育児してないと妻が不機嫌になることが結構あって。下の子ではおむつの交換だったり，上の子では着替え。「できるでしょ」「やってよ」みたいなことを言われる。頑張るようにはするんですが，なんだろ，やりたい気持ちはあるんですけど，なかなか難しいかなっていうのはあってですね，やる時もありますし，できない時もあります。子どもが言うことを聞いた時はできますけれども，嫌だー，着替えたくないーとかいう時はできないですよね。（R）

＃41　頼まれてすぐ動かなかった時。妻は，ご飯の準備とかしてるんですけど，仕事から帰ってきて，ちょっとパソコン使ってたりとか着替えをしてたりとか，私は別のことしているので。その中で，ランチマット敷いたりとか，ウェットティッシュの準備とか，子どものご飯手伝って，みたいな話はよくされるんですけど，私が「ちょっと

待って」と待たせてたりすると，妻が怒ると言うか，今すぐやってほしいのに，みたいな。妻は，子どものご飯の時間を決めているので，その時間にご飯をあげたいという思いとか，自分がご飯の支度をしていて準備ができないので，手伝ってほしいとかはよくわかる。だけど，こっちもこっちでキリが悪いので，もう少し待ってっていう感じ。するとまあ，あきれるときもあれば，さらに怒るときもあれば。(S)

＃42　朝は一緒に食べるんですけど，妻もやっぱり自分の時間がもてないので，僕に食べさせようとする。まあ，司令塔。僕の食事を子どもの隣に置くとか…。そういう時に言われるのは，「いつも一緒に食べる時間がないんだから食べてあげて」って言葉で，まあ誘導されます。まあ，私も一人で一生懸命食べたいわけで，「朝，仕事に行く前にゆっくり時間があればねー」って。食べさせてると時間がかかるんで。妻は何かと僕に，歯磨きとかなんでもそうなんですけど，任せようとしますね。(T)

(1－3) 父親が自分の対応に非を感じる場合

＃43　子どもは親の喋った言葉を聞いて覚えて，他のところで喋っちゃうから，言葉遣いは気をつけてって言われました。悪い言葉使うと妻は良い顔はしませんね。まあ確かに気をつけなきゃなあとは思ったんで。(T)

＃44　子どもって思いたったこととか質問形式で聞いてくるじゃないですか。それを僕は生返事で，軽い返事で答えることがあってですね。そういうのを「しっかり答えたほうがいいんじゃないの？」「子どももそういう風になっちゃうから，そういうときはすぐ（子どもに）教えてね」って言われた。(R)

＃45　他のパパは，もっとやってるよってことを言われることがある…あなたはなんもしないじゃんて。(R)

(2)　子育てに関する考え方の違いを間接的に示唆する母親　(O，P，R)

「C1　子どもに対するあなたのかかわりで気に入らない行動を他の人に話す」および「C7　ムッとして，あきれた顔をあなたにむける」から語られたのは，母親が子育てに関する方針や方法の違いを父親に間接的に示す姿であった。上記「(1)父親の対応に対する指示・制止・修正者としての母親」との違いは，父親に対する批判が直接か間接かの違いである。あくまで父親による読み取りであるが，父親は，母親による間接的な不満の表出（他者に不満を漏らす，言葉にはしないが不機嫌な表情になるなど）を，母親の葛藤回避であると認識している。

#46　僕は，無理しなくても，食べたいものを食べればいいんじゃないかって甘やかしちゃうところがある。妻は，子どもが食べたくないものでも，なるべくいろんなものをバランスよく食べて欲しいって，自分なりに思っている。その場ではそんなに直接言われないんですけど。帰省したときに，「ちょっとお父さん甘すぎるんだよね，もう少し無理にでも食べさせて欲しい」と。多分直接に言いづらいから。私も妻も地元から離れてやってるのもあって。普段直接ぶつかってしまうと，逃げ場がないので，多分我慢してると思うんです。(O)

＃47　土日はなるべく時間作るようにしてるんですけど，平日は出張がすごく多い。「ほんとに24時間二人っきりって疲れるんだよね」とか，「あたるところがない」「もう少し手伝ってほしい」とか，親に苦労話をするのを何度か聞いたことありますね。その間，僕こっちで息子と遊んでるような…。内容に関してはある意味仕方ないけど，多少いらっとします。その場になるまで言われたことがなかったことを人に言わなくても。直接言ってほしいなって。その反面，自分にもやっぱり，家を空けてるって負い目もありますし。たまの帰省でまぁ，甘えてるんだろうなって，まぁ言えるときに言った方がいいんじゃないかって，飲み込むって感じですかね。それでまぁ治まって，その先また頑張れるんだったらまあ，しょうがないのかな，って感じですね。（O）

＃48　1年くらいずっと夜泣きで，心身ともに疲れ切っていて。泣いても何でも，もう放っとこうと，僕なんかは思うんですけど。そうすると妻が，結構怒って，あやしてなんとかしてやれと。ただやっぱりやまないものはやまない。なので，もうこれ共倒れするからだめでしょって言うと，呆れた顔してムッとしている，そういうのがよくありますね。無責任って思ってるのか。それとも，大人になってやらないでどうするんだって思っているのか。でも，泣いてても，僕は疲れ切ってて動けない，「あー，やってるわー，起きられへんし，どうしよう」。彼女も疲れ切ってるけれども，見かねて起きて，「あーもう，いい」って行く。そういうのは多いですね。しかも子どもは悪くない。でもさすがに毎日それを際限なくやられると，たまりますね。妻も悪くはないんですよ。それは分かる。分かるんですよ。行き場がないから彼女もかわいそうだし俺もかわいそうで。（P）

＃49　育児に関して僕がやっていないということで，むっとして，まあそっけない顔を僕にむける。（R）

⑶　負担感情をぶつける母親　（O，T）

母親のより広い意味での子育て負担感が父親へ向けられた言動である。自分の楽しみを持とうとする父親に母親が不満をぶつけた場面や（＃50），子どもの夜泣きに対応する心身の負担があふれ出た衝突（＃51）などであった。

＃50　学生時代の友達と旅行に行く計画を立てて，前々から嫁に言ってたんですけど…。妻と子ども置いて，僕が男友達といくのが，直前になってだんだん気に入らなくなったみたいで。頻繁に休み取れるわけでもないので，久しぶりに有休取って，それを家族に使わずに，友だちと使うということで。「行ってくれば，行けばいいじゃない」みたいな言い方ですね。直前に「ここ泊まってこう回ってくるから」っていうのを，多分楽しそうに言っちゃったと思いますね。それが多分，イラッと来て，いやぁー，もう物に当たってたんですね。しゃべっているうちにヒートアップしてきてしまって。なんかお皿とか片付けるときに勢いよく置き過ぎて割れちゃったりとか…。もうもう抑えきれなかったんでしょうね。「自分だけ遊んで！」っていう気持ちに。（O）

＃51　帰ってきた時，子どもがどうにも泣き止まないで妻がすごくイライラしてて，僕に対してすごく感情ぶつけてくるというか。妻も（子どもが）泣いてる意味が分かんなくてイライラしてるんだけど，「私よりあなたの方が子どもの気持ちなんて分かんないでしょ」「どうせ分かんないでしょ，この私の今の気持ち」っていうのを，もう泣きながらぶつけられましたね。まあ僕は僕なりに色々手伝ったりはしてるんだけども，仕事しながらも，まあ100％，120％手伝えてるかっていうとわかんないですけど，それなりに食事も作ってあげたりとか，それなりに

オムツ替えとかもしてあげたりとか，多少なりとも手伝って，一応最大限できる事はしてるつもり，頑張ってたつもりなんですけどね。まあバッとそういう言葉を言われると正直悲しいというか。でもそれを言っちゃうとどうしようもないというか，大変なんだろうなっていう気持ちも分かるんで，まあぐっと我慢したって感じですね。まあとりあえず聞いてあげるしかないかなって。結婚して，喧嘩がなかったんですけど，子どもが出来て，子育てになった時に本当に喧嘩っていう感じだったので。（T）

5. （1事例のみ）父親による母子間調整（O）

1例ではあるが，父親が母子間を調整する行動が見られた。母親と子どもがぶつかっていても，母親が頑張っている間はアドバイスはせず，むしろ，子どもの相手をすることで，母子間に距離が出来るような対応を心がけるというものである。

＃52　妻はあまり器用ではなくて，ストレートにぶつかりすぎちゃう。もう少しうまいこと誘導してあげれば，落ち着くのになぁとか思うんですけど。妻が自分なりに考えてやってるのが分かるので，頑張ってる間は基本的には言えないです。だから子どもと妻がぶつかっちゃう時は，「はいはーい」って入って，「ちょっと考えといてー」とか言って，子ども連れてっちゃったりとか，「人が代わったら食べるかもよ？」って，代わって食べさせたりとか。そういう風にするとちょっと落ち着く感じはしますね。（O）

考　察

本研究は，幼児期の子どもをもつ父親と母親が，日常の子育てをどのように“ともに”対応しているか検討することを目的とした。“ともに”について，coparentingの概念に立ち返ると，「その子どもの世話と養育に責任を負うべき複数の養育者に共有される行為（McHale&Lindahl（2011）」であり，サポーティブな場合もあれば阻害的な場合もある。またVan Egeren & Hawkins（2004）は，親の責任が分担される方法について「各々が公正だと思っているかどうかが重要」と述べており，父母の関与のバランスが必ずしも均等であることを表すわけではない。本研究においても，これらの視点を念頭におき，幼児の存在を重視することも心がけた。

本研究は，対象者を第一子が2，3歳の父親に統制しているが，この時期の母親は，最初の1年間（0歳時）に比べると，肯定的な感情が有意に低下し，逆に子どもをたたくなどの否定的な育児行動が有意に上昇することが明らかになっている（加藤・津田，2001）。本結果からも，父親は母親から頼られる一方で，母親の不機嫌さやいらいらなどの情緒的表出も向けられていた。子どもが可愛いというだけでは子育ては出来ないという試練に直面する時期において，夫婦ペアレンティングもまた，ネガティブな面とポジティブな面を抱え持つ葛藤的な時期となっていることが推察された。

1. 2.3歳幼児をもつ夫婦の子育てに関する背景

父親から繰り返し語られたのは，子どもによる母親選好であった。寝るとき，泣いたとき，抱っこのとき，後追いなど，父親にとって苦手な関与場面において，子どもは母親を求め，子どもが母親

を求めるので関わりはますます困難になる。父親は，母親が子どもから離れてひとりで行動したがっていることも理解しており，自らが子どもの世話を行うことで協力しようと思う。しかし子どもが母親を選ぶため，父親は，「手の出しようがない」と落胆し，仕事で子どもとの接触時間の少ないので仕方がないと考える。しかし母親側からすれば，子どもが自分を求めれば，母親はますます子どもから離れられなくなるため，もっと父親に関与してほしいという母親の願いにつながる。

父母の差異としては，父親は子どもに対する大胆な身体遊びが多く，母親の遊び方との違いがある。思春期の父親は，子どもの性別に即した対応の違いが明らかであったが（加藤・神谷，2019），本結果では，子どもの性別については特に触れられない。むしろ，子どもに対する親側の性別の方が意識されており，母親の出番，父親の出番が区別されているようであった。

また思春期の結果では，子どもの生活時間，子ども自身の嗜好や意思の主張など，子どもの要因は，夫婦コペアレンティングにおいて見逃せない位置を占めていた（加藤・神谷，2019）。それに比べると，幼児期の父親の語りからは，子どもからの影響は必ずしも強調されない。ただし父母間で子育てを一緒に行うと申し合わせても，子どもが「お母さんじゃないと駄目」と言ってぐずり，想定どおりには進まないというエピソードは，夫婦ペアレンティングが父母二者関係だけで決まるものではなく，子どもの存在を含めた交流であることを示している。

2. 父親の認知する，母親による父親への“促進”的夫婦ペアレンティング調整

母親の促進的な夫婦ペアレンティング調整行動のエピソードから，以下の6つの機能が浮かび上がった。「子どもの様子を報告する母親」「父子接触の機会をアレンジする母親＝自分の時間を作る母親」「父親に子どもへの対処を教える・依頼する母親」「父親に子どものことで相談する母親」「父親に感謝する母親」である。これらは，部分的に重なる機能もあるが，幼児をめぐる父母間のやりとりの機能の詳細を描写するために分けて考えることとした。

⑴　子どもの様子を報告する母親

思春期には，出来事の報告だけではなく，子どもの繊細な気持ちや個としての考えを父親に伝える“通訳”としての仲介的な役割を取ることが多かった（加藤・神谷，2019）。これに対して幼児期の母親は，父親が仕事で不在のために知ることのできない子どもの様子を報告し，父親と共有している。父親は，自分が関わりに関係するポジティブな子どもの反応を報告してもらうことにより，「この関わりで良いのだと」いう自信を持つことができ，その後の関与の動機づけを高めている。子どもが喜ぶ姿を報告する母親の嬉しそうな様子を見て，父親自身も嬉しくなるとという，ポジティブな感情の伝搬と共有は，思春期同様に認められた。これは，子どもの反応を“夫婦でともに”喜び合う姿であり，子どもに向き合う調和的な夫婦ペアレンティングと言える。

⑵　父子接触の機会をアレンジする母親＝自分の時間を作る母親

父子接触を増やすための機会をアレンジし，それがうまくいくように準備する母親の姿は，思春期にも同様に見られる。ただし，思春期に比べて幼児期は，母親自身が自分の時間を持とうとする意味合いが前面に出ており，父親もこれを認識している。母親は，日頃子どもが好む遊び，出来る

ようになったことを父親に関わりのレパートリーとして提案し，なんとか父親と子どもが無事に一緒の時間を過ごせるように工夫する。そもそも父親には,「妻の方が子どものことを知っている」「子どもにとっては妻の方がいいんだろう」という自信の無さがある。しかし，結果的に母親不在でも子どもが喜んだり，子どもに頼られたり，父子の時間を乗り切れたことが，母親への感謝や「自分も意外とやれる」という自信につながっていた。

⑶　父親に子どもへの対処を教える・依頼する母親

父親が語る思春期の夫婦ペアレンティングでは，母親が主に，子どもの学習，成績，受験や進路のほか，帰宅時間，叱ったり注意することなどしつけの問題，子どもへの関わり方についで，父親に相談し対応を頼んでいた。それらは主に，日常の文脈において母親が自分ひとりでは対処できないと思われることについて，父親に意見を求めたり，共に考えたりするためであり，相談することと依頼することはひと続きの夫婦ペアレンティングと思われた（加藤・神谷，2019）。

これに対し幼児期では，母親は自分が既に出来るようになっていること，ある一定の基準でやりたいと思っている子どもへの対応スキルを，まだ出来ない父親に教え，練習として関与を依頼している。あるいは，母親の手が足りない時に父親に代わってもらう。いずれも，母親が出来ないことではなく，父親に覚えてもらって動いてもらいたいことであった。

⑷　父親に子どものことで相談する母親

先に述べたように，幼児期では，母親が父親よりもよく知っている子育てを教えながら依頼する場合と，父母ともにわからないことを一緒に考えようとする場合が区別されたため，相談する母親のカテゴリーは独立させて考えることとした。

内容は，病気，予防接種，病院に行くか否か，食べ物，教育方針，習い事，発達，幼稚園選びなど多彩である。父親は，自分の意見が求められること，子どもを知ることができること，子どもの問題を母親と共有し一緒に考えられること，母親へのサポートとなることを喜んでいた。一方で，母親が必要としているのは，具体的なアドバイスではなく“ガス抜き”であり，誰かに話をしたい母親の気持ちを受け止めるのが“求められている役割”と認識する父親も見られた。

母親は父親に対して，思春期では，父親の子どもへの関与を“子どもが喜んだ”と母親が喜び，父親に感謝を伝え，それによって父親が喜ぶという連鎖があった（加藤・神谷，2019）。「父－子－母」の三者関係の中で感謝が連鎖する思春期に対して，幼児期では，子どもの反応が取り込まれることは少なく，主として父親を労う「父－母」二者関係の感謝である。

直接的な感謝は，人によっては伝えにくさがあるかもしれないが，母親が友人に向けて父親を褒めることも，父親は感謝と理解し，父親としての動機やその後の関与を高めていた。なお，母親が子どもに向けて「父親は外で頑張ってる」ことを伝えることで，間接的に父親に感謝を伝える例もみられた。こうした例は，幼児期では少数だが,「父－母」二者関係に子どもの存在がとりこまれ,「父－子－母」三者関係の意味をもち始める例と思われる。

3. 父親の認知する，母親による父親への“批判”的夫婦ペアレンティング調整

母親による批判的な夫婦ペアレンティング調整行動のエピソードからは，「父親の対応に対する指示・制止・修正者としての母親」「子育てに関する考え方の違いを間接的に示唆する母親」「負担感情をぶつける母親」が分類された。このうち，「父親の対応に対する指示・制止・修正者としての母親」への父親の反応には，「両者で議論や口論になる場合」「父親がその場の衝突は回避するものの父親に割り切れなさが残る場合」「父親が自分の対応に非を感じる場合」がみられた。

⑴　父親の対応に対する指示・制止・修正者としての母親

批判的夫婦ペアレンティングにおける母親から父親への「指示」は，父親が母親の言外に「どうしてこのようにやらないの？」という批判的ニュアンスを読み取っている点や，父親の考えと食い違いが生じる点で，促進の「教える」とは異なる。思春期においても，子ども対応について母親がもつ一定の基準に父親が反する場合やその基準に届かない場合，父親への制止，修正行動がみられた（加藤・神谷，2019）。幼児期に関する本結果からも，母親には子育てに関する一定の基準があり，父親のやり方を母親の基準と照合して調整していることがうかがえる。

父母間で子育ての方針や方法が衝突すると議論や口論になるが（1－1），見方によっては，それだけ父親が積極的に関与した結果とも言える。その場はいずれかが譲歩するが，子どもは既に家族成員として家族システムの一端を担っており，子どもの成長によって衝突が解決することもある（＃36）。しかし，幼児には父母関係に並ぶ表現力がないためか，少なくとも父親は，「父－母」二者関係を注視しているようである。また，父母のズレの背景として，祖父母による自分の育てられ方がモデルとなっていることがうかがえた（＃37）。思春期の子育てでは祖父母に関する語りは聞かれず，現在の家族関係に終始していたことを考えると（加藤・神谷，2019），子育て初期という「育てられる者」から「育てる者」への転換にあたり（鯨岡（2002），頼りとする手近な過去体験と現実の子育て経験とのすり合わせを繰り返し，次第にわが家のルールを作り上げていくのかもしれない。

その場の衝突は回避するものの，父親に割り切れ無さが残る場合（1－2）では，「頑張ったつもりなのに」という納得のいかなさ，「大変なのはわかる」「やりたくても出来ないことはある」と理解を求める気持ちなどが，表出されずに抑え込まれているようであった。

⑵　子育てに関する考え方の違いを間接的に示唆する母親

思春期では，父親の関与に母親が納得できない場合に，父親の意見を十分に論破できるほどではないため，あるいは衝突によるデメリット回避のため，納得いかなさを表情や雰囲気に表すことで否定的なメッセージを送っていた（加藤・神谷，2019）。本結果における非言語レベルの批判は，表情以外にも，母親が面と向かっては批判せず，父親が聞こえるところで他者に話すというエピソードにみられた（＃46，＃47）。父母それぞれの考えを押し通そうとすると口論になるため我慢するが，代わりに実家などで他者に向けて話す。父親は「直接言って欲しい」と思いつつ，「直接ぶつかると逃げ場がないので，（互いに）我慢」「それで治まるなら仕方ない」と，また我慢する（＃46）。

そうした我慢による葛藤回避が必要な背景として，核家族であることが言及されていた。通常，核家族の子育ては，祖父母からの援助を得られないことで，父母の負担が大きいと考えられている。

これに対して本結果が示すのは，道具的，情緒的援助の不足に留まらず，思うようにならない子育て場面では，二人しかいない互いの関係悪化を回避するために，それぞれが我慢や妥協を選ぶ可能性である。夜泣き場面に際して＃48は，「子どもは悪くない。妻も悪くない。行き場がないから彼女もかわいそうだし俺もかわいそう」と述べる。非言語的な表情や態度は，解決の見えない局面で，父母が関係悪化を踏みとどまろうとする精一杯の抵抗かもしれない。

⑶　負担感情をぶつける母親

我慢や妥協とは逆に，母親がストレスにより父親に激しい感情をぶつけることもある。子育ての負担をひとりに背負わされたような思いや，これ以上自分には対処できないという気持ちがあふれている。子どもが生まれる前は喧嘩がなかったが子育てのことになると喧嘩になるという指摘（＃51）からは，幼児の子育て負担に加えて，二者関係に子ともが加わることによって関係性の修正が必要になっていることがうかがわれる。

4.（一事例のみ）父親による母子間調整

一事例ではあったが，父親が母子間の不具合に割り込み調整を行っていた。思春期に多く見られた「父子衝突への割り込みとしての母親」の仲裁的役割を，ここでは父親が担っていることになる。母親が子どもと強い一体感をもち「子どもの世話は自分がやらなければならない」という責任を取り込むと，他者からの援助を自ら遠ざけてしまう（加藤，2007）。養育ケアが重視され母子関係の距離が近くなりがちな幼児期であるが，少し距離をおいて母子を適切に調整する父親の立ち位置は，今後，父親関与の量質の上昇に伴って増える可能性もあり，今後も検討していきたい。

まとめと総合考察

1. 幼児期の夫婦ペアレンティング：「父―子－母」三者関係（夫婦ペアレンティング）形成と，それに伴う「夫―妻」の二者関係（夫妻関係）の修正をつなぐ調整行動

夜泣き，泣きやぐずり，寝かしつけの場面や，一定時間を父親ひとりで子どもの世話をする場面などは，幼児に母親選好が起こりやすく，父親には母親から求められても自分の手には負えないという無力感が高まる。つまり，母親選好という子どもの主張によって，父母（夫婦）二者関係が揺らされている。ただし，思春期の子どもの言動が父子，母子，父母の二者関係や「父－子－母」の三者関係に大きく影響するのに比べれば，幼児の存在は「父－子－母」の三者関係を際立たせるほどではなく，父親の認識では，幼児に関する問題を「父－母」が二者横並びで対処する印象が強い。これは，父母が子どもの問題に直面すると，（子どもを含めない）二者間の関係葛藤を意識し，積極的対処や葛藤回避などの形をとりながら父母関係の問題解決に取り組むことが頻繁に見られたことからもわかる。

例えば，幼児期の習い事や幼稚園選びは，思春期の受験や進路についての相談場面と同様に見える。しかし思春期では，子どもにどう助言するかを相談する例，それは子どもに言わないでと母親が父親に釘を刺す例，父母の意見対立の裏で子どもを説得する父親の例など，父母の相談には子ど

もの存在が大きな位置を占めていた（加藤・神谷，2019）。これに対して幼児期では，「（させたい習い事）私は水泳と英語とそろばん。お母さんは英語とそろばん（＃24）」「（幼稚園）どうしようねって二人で相談（＃26）」など，父母二者間での話題の共有に閉じている。

家族ライフサイクルの視点からすると，原家族から離れて新しい家族を築く「夫－妻」という二者関係は，子どもの出生により，夫婦システムを土台にしながらも，子どもを含めた「父－子－母」という三者関係構築や原家族との関係の再構築に力を注ぐことになる。特に幼児期においては，父母がそれぞれに成長する中で身につけ馴染んできた考え方を出し合いすり合わせながら，新しい家族の考え方を作り上げる。父母間の「怒るか怒らないか」の議論（#37）は好例である。本結果では，幼児期の夫婦ペアレンティング調整は，「夫－妻」二者システムと「父－子－母」三者システムが混じり合う中で，父親と母親の役割調整を進めることが特徴的に示されたと言える。

母親が父親に向けて行う調整行動は，言語による明確で直接的なものもあれば，非言語的で暗示的なものもある。促進は，他者や子どもに向けて父親を褒め感謝するのを見聞きすることで，父親は母親が満足していることを知ることができる。しかし他者を通じて父親の耳に入る批判には，どうして直接言ってくれないのかと父親の苛立ちも起こる。母親の不機嫌からも父親への非難は伝わる。しかし父親は，「直接ぶつかってしまうと，逃げ場がない（＃46）」「行き場がない（＃48）」ため，「それで治まるならしょうがないと飲み込む（＃47）」。父親は母親の我慢にも気づいているからである。

第一子が幼児期と青年期前期の父親は，他の年齢群に比べて，自己を子育てに投入することによる制約感をより強く感じるほど，自分の家族への愛情や関係性認識が高かった（加藤・神谷，2016）。子どもによって父母間に困難が生じるが，喜びももたらされる。子どもが生まれる前は喧嘩がなかったのに生まれたら喧嘩になったという言葉は，子どもの存在が父母二者関係を揺らし，困難を通じて，子を含めた三者関係を拓く契機となることを示している。父母に見られる衝突回避も，三者関係形成の困難によってこれまでの二者関係（夫婦関係）を壊さないための努力と言えよう。

2. 母親の gatekeeping 行動が父親に及ぼす影響：肯定・否定の両価的側面

本結果では，「母親の方が子どものことをよく知っている」と言う父親の認識が繰り返し語られた。父親が母親の後からついていく，教えてもらう，修正されるという側面が強調され，子どもの母親選好や父親の関与時間の短かさも加わり，母親主導の子育てを強めているように語られた。

海外では，家庭役割に対する自分の責任を維持しようとするために，母親が家庭のマネージャーとなって父親の育児関与に采配をふるい，父親の子ども関与が妨げられることを，家庭領域の門番のようにその鍵を握るという意味から “gatekeeping” と呼んでいる（Thompson & Walker, 1989）。母親アイデンティティの強い母親は，父親の関与に対して厳しい評価をしがちであるこという指摘や，gatekeeper の母親はそうでない母親よりも有意に家事育児の時間が長いという指摘もある（Allen & Hawkins,1999）。これに対して Roy & Dyson（2005）は，母親には父親のファシリテータの役割があるとし，父子の交流を母親が励まし子育ての経験する機会を作り出すことが父親の関与

を促すという，コペアレンティングの促進的側面を述べている。

このように，母親の gatekeeping 行動に関する先行研究が，父親へのネガティブな効果とポジティブな効果を指摘していることは，本結果を考える際に大変示唆的である。妊娠，出産，産後の母子一体時期の体験から養育ケアに続く母親に対して，父親は「((妻が) 先に親になってしまう（＃20)」「僕はおっぱいあげられない（＃18)」というようなスタートラインの不利を埋めなければならない。本結果は，その際，母親が gatekeeper となること自体が良いか悪いかということではなく，母親が一歩先んじて得た親役割を“どのように”父親にファシリテート（舵取り）していくかが鍵となることを明らかにした。そのために行われる夫婦ペアレンティング調整が，子育ての日常の中で奏功したりしなかったりという両面が見られていた。それは，父母両者による相互作用に関係しており，母親のみに任されたり，母親の巧拙で評価されるものではない。その意味においても，夫婦ペアレンティングと夫婦二者システムは連関すると推察される。

今後の課題として，幼児期の母親を対象とすることにより，調整者としての母親の実感と思いを抽出し，本稿が明らかにした父親視点の夫婦ペアレンティングと併せて考察することが求められる。また，母親にとっての葛藤回避，妥協，我慢への思いおよび「父－母」の二者関係システムと「父－子－母」の三者関係システムの関係についての認識を加え，データを増やしながらさらに検証していく必要がある。父母による夫婦ペアレンティングシステムは，夫婦関係を揺さぶり微調整を繰り返しながら進むが，子どもの存在をとりいれた三者間のダイナミクスがより明らかになる過程については，児童期を含めた検討が必要であろう。

本研究は科研費基盤 B（24330191 および基盤研究 C17K04338（いずれも研究代表者：加藤道代）の助成を受けた。

【文　献】

Allen, S. M., & Hawkins, A. J. (1999). Maternal gatekeeping: Mother's belief and behaviors that inhibit greater father involvement in family work. *Journal of Marriage and Family*, 61, 199-212.

Cowan, P. A. & McHale, J. P. (1996). Coparenting in a family context: Emerging achievements, current dilemmas, and future directions. *New Directions for Child and Adolescent Development*, 74, 93-106.

Cowan, P. A.,Powell, D., & Cowan, C. P. (1998). Parenting interventions: A family systems perspective. In I. E. Sigel & K. A. Renninger (Eds.), *Handbook of child psychology: Vol. 4 Child psychology in practice* (5th ed.) New York: Wiley.

Feinberg, M. E. (2003). The internal structure and ecological context of coparenting: A framework for research and intervention. *Parenting: Science and Practice*, 3, 95-131.

亀口憲治 (2014). 家族心理学特論（三訂版）放送大学教育振興会 .

加藤道代 (2007). 子育て期の母親における「被援助性」とサポートシステムの変化 (2). 東北大学大学院教育学研究科研究年報， 55, 2,　243-270.

加藤道代・神谷哲司 (2016). 夫婦ペアデータによる親としての発達意識の検討．東北大学大学院教育学研究科研究年

報 , 64（2）. 55-67.

加藤道代・神谷哲司（2019）. 思春期の子どもをもつ母親の夫婦ペアレンティング調整―父親の語りから―　東北大学大学院教育学研究科年報 , 68（1）, 121-142.

加藤道代・黒澤泰・神谷哲司　（2012）. 母親の gatekeeping に関する研究動向と課題―夫婦ペアレンティングの理解のために―. 東北大学大学院教育学研究科研究年報 ,61（1）, 109-126.

加藤道代・黒澤泰・神谷哲司　（2014）. 夫婦ペアレンティング調整尺度作成と子育て時期による変化の横断的検討 . 心理学研究 , 84（6）. 566-575.

加藤道代・津田千鶴　（2001）. 育児初期の母親の養育意識・行動の縦断的研究. 小児保健研究, 60（6）, 780-786.

鯨岡峻（2002）. ＜育てられる者＞から＜育てる者＞へ　関係発達の視点から　NHK ブックス .

McHale, J. P., & Lindahl, K. M.（2011）. *Coparenting: A conceptual and clinical examination of family systems*. Washington DC: American Psychological Association.

Minuchin, S.（1974）. *Families and Family Therapy*. Cambridge, MA: Harvard University Press.

岡堂哲雄　（1991）. 家族心理学講義　金子書房 .

Roy, K. M., & Dyson, O. L.（2005）. Gatekeeping in context: Babymama drama and the involvement of incarcerated fathers. *Fathering: A Journal of Theory, Research, and Practice about Men as Fathers*, 3, 3, 289-310.

Thompson, L., & Walker, A. J.（1989）. Gender in families: Women and men in marriage, work, and parenthood. *Journal of Marriage and Family*, 53, 461-474.

Van Egeren, L. A., & Hawkins, D. P.（2004）. Coming to terms with coparenting: Implications of definition and measurement. *Journal of Adult Development*, 11, 165-178.

Mothers' Regulatory Behaviors for Coparenting in Families with Toddlers:

Semi-Structured Interviews with Fathers

Michiyo KATO
(Professor, Graduate School of Education, Tohoku University)
Tetsuji KAMIYA
(Associate Professor, Graduate School of Education, Tohoku University)

The purpose of this study was to describe how mothers regulate fathers' involvement in child-rearing. Qualitative data from semi-structured interviews were obtained from 6 Japanese fathers of toddlers (aged 2-3 years). Fathers were asked to describe the mothers' regulatory behaviors for coparenting (encouragement and/or criticism) of fathers' involvement with their children. According to the results, mothers' encouraging behaviors included the following: reporting the child's behavior to the father, arranging father-child activities with mother's spending their free time, teaching the father child-care skills, consulting with the father on child-rearing matters, and thanking the father for helping in coparenting. On the other hand, the mothers' criticizing behaviors included the following: instructing, checking, and modifying fathers' behavior towards the child, indirectly suggesting different child-rearing viewpoints, and showing mothers' irritation. Episodes in both categories were discussed in the context of the marriage-parenting association from the viewpoint of the child-rearing family system. Future research is needed to examine mothers' regulatory behaviors for coparenting using mothers' self-reports.

Keywords : toddler, coparenting, father, encouragement, criticism